

松田科学技術政策担当大臣のご視察

平成17年11月25日(金)に松田岩夫科学技術政策担当大臣が動物衛生研究所を視察された。今回は平成17年10月に大臣に就任されたのを機に内閣府特命担当大臣(科学技術・食品安全担当)として、我が国の科学技術の先端研究と食の安全を守る最前線の研究等、筑波研究学園都市に集積された多彩な研究現場を視察することを目的に、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター、に並んで動物衛生研究所を訪問されたものである。

大臣には、内閣府から小見山大臣秘書官、井上大臣秘書官、清水大臣官房審議官、加藤政策統括官付参事官、中村政策統括官付参事官、森本政策統括官付政策企画調査官、山本政策統括官付参事官補佐、鳥居政策統括官付参事官付主査、境食品安全委員会事務局情報・緊急時対応課長が、また農林水産省からは山田農林水産技術会議事務局長、氣多同局地域研究課長が随行された。動物衛生研究所から谷口所長、村上企画調整部長、代田総務部長、後藤総合防疫研究官、志村疫学研究部長、山口感染症研究部長、犬丸免疫研究部長、成田生産病研究部長、宮崎安全性研究部長、品川プリオン病研究センター長、および八木研究企画科長が対応し、さらに高病原性鳥インフルエンザ研究については、塚本感染症研究部病原ウイルス研究室長、谷村企画調整部主任研究官が、またプリオン病研究については、横山プリオン病研究センター病原・感染研究チーム長、岡田病態解明研究チーム長、村山安全性技術開発研究チーム長が対応した。

大臣到着後、大会議室において、谷口所長が動物衛生研究所を代表して歓迎挨拶を行った後、動物衛生研究所の沿革、研究および活動等の概要を紹介した。次いで山口感染症研究部長から高病原性鳥インフルエン



ザ研究についての概要および最近の国内で発生している高病原性鳥インフルエンザの疾病状況とその現在に至る経過について説明した。その後研究本館電子顕微鏡室および動物衛生高度研究施設の視察が行われた。

電子顕微鏡室では塚本病原ウイルス研究室長から高病原性鳥インフルエンザ研究に関する取り組み状況の説明後、谷村主任研究官の操作と説明の下で電子顕微鏡により実際の高病原性鳥インフルエンザウイルスを観察された。

動物衛生高度研究施設では品川センター長から同施設会議室において、モニターを用いてプリオン病研究センターの研究概要および同施設の概要について説明した後、同施設中央管理室において、横山、岡田、村山各チーム長の説明を受けながら監視モニターによりプリオン病感染牛および同施設各室の様子を観察された。

短時間の訪問の中、大臣からは種々のご質問と激励の言葉をいただいた。後日、大臣から谷口所長あてに礼状の送付があったことを紹介する。

最後に、当日対応した関係者をはじめ、訪問準備のためご協力いただいた職員の皆様に感謝申し上げます。

(研究企画科)